

意見分かれる街づくり

「シモキタ」の愛称で親しまれる、活気ある若者の街
・下北沢は今、駅周辺の「街づくり計画」を巡って意見が分かれています。

前駅北沢下 市場食品

(世田谷区北沢2)

一方で、迷路のように入り組んだ街並みの魅力を守り、地域の人たちとのつながりも深めたという。

一方、迷路の覚悟だ。計画内容には批判的で、「高いビルがなく、車が入ってこず、親しみある声飛び交う街の雰囲気を、いつまでも守ってほしい」と言う。

計画が実行されると取り壊される予定の、駅北口にある「下北沢駅前食品市場」と呼ばれる古いアーケード街は、前身は戦後の闇市。今も昔の面影が残る。

こうしていくつかの街を歩いて感じたのは、商店街の問題は、地域の人たちの暮らしの問題でもあるという。経済や仕事を中心でとかくおろそかにされがちな生活の場や、家族や隣人の間の親しい関係を守る街づくりを考えるうえで、商店街が果たす役割は大きいと思った。

計画の内容は、小田急線の地下化に伴い、駅前広場を造り、同時に「補助54号線」の一部として、駅の北側に幅26メートルの道路を通そうというもの。

ここで半世紀近く、2代にわたり乾物屋を営んでいた志村高一さん(58)は、立ち退きになったら店を閉じ

る覚悟だ。計画内容には批判的で、「高いビルがなく、車が入ってこず、親しみある声飛び交う街の雰囲気を、いつまでも守ってほしい」と言う。

防災や、高齢者、障害者に優しい街づくりなどの観点からこの計画に賛同する人々と、この街の魅力である「迷路性」などを守ろうと、反対する人々がいる。

下北沢一番街商店街青年部の副部長を務める大塚智弘さん(41)は、長年の悲願である駅周辺の整備が実現されるのを機に、新しい街づくりを進めたいと抱負を語った。「街路灯などの照明を工夫して夜の散歩を楽しめるようにしたり、ベンチを設けたりと、様々なアイデアを研究しています」。

一期一絵

桐谷夫妻の



絵と文 桐谷逸夫